

# 高温に対する農作物等の管理について（果樹抜粋）

令和元年年 5 月 23 日  
農業技術課

## 1 共 通

（１）農作業中の熱中症を予防するため、炎天下の長時間に渡る作業はできるだけ控える。

また、帽子等日除け対策を万全にするとともに、十分な水分補給と休憩時間を確保し、体調がすぐれないときは作業を中止する。

作業服は吸湿性・通気性の良いもので、熱を吸収しないもの（白系統の色）にすると良い。帽子も通気性の良いものを着用する。ハウス等の施設内作業については特に気をつける。

（２）現地指導会においては、木陰を利用するなど開催場所に配慮するほか、適宜、休憩をとり水分補給を促す。特に、高齢者には、声を掛けるなど参加者の体調にも目を配ること。

万が一、参加者が体調を崩した場合は、早めに応急措置（涼しい場所へ移動し、水分を補給する等）をとり、必要により救急車の出動を要請して医療機関での診察を受けるようにする。

## 2 果樹

（１）かん水と土壌管理

- ・かん水可能な果樹園は、早めにかん水を行う。かん水間隔の目安は、概ね 5～6 日とする。
  - ・全面かん水が困難な場合は、樹冠下の根域を中心に部分かん水を実施する。
  - ・水分の競合を防ぐため、草生園では下草刈り、清耕園では除草を兼ねて浅く中耕を行う。
- 樹冠下に敷きワラ等のマルチを実施し、土壌水分の保持に努める。

（２）苗木の管理

- ・今春に定植した苗木は、定期的なかん水を行い、生長を助ける。また、りんご新わい化樹の若木など根域の浅い果樹類には、優先的にかん水を行う。

（３）生理障害対策

- ・少雨で土壌が乾燥すると、りんご・ぶどう・おうとう・あんずなどでホウ素欠乏症、りんごのカルシウム欠乏症状（コルクスポット、ビターピット）などの生理障害が発生しやすくなる。かん水を行うとともに、必要に応じて葉面散布を行う。

（４）病虫害防除

- ・今後乾燥が続くと、リンゴうどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類などの発生も心配されるので、適期防除に努める。

（５）りんご、なし

- ・凍霜害を受けた地域では、結実状況の見極めができ次第作業が遅れないように摘果作業を行う。

（６）もも

- ・肥大状況を見極めながら摘果作業を進め、果実肥大を促進させる。

（７）ぶどう

- ・乾燥により生育にバラツキが見られる。芽かきで新梢の生育を揃えるなどの管理を徹底し、展葉枚数などの生育状況を把握する。農薬散布や植物成長調整剤の処理等は適期に行う。なお、果樹試験場の「巨峰」開花予想（5/20 現在）では、開花始めは、6 月 7 日（平年 6 月 8 日、前年 6 月 3 日）、満開期は、6 月 9 日（平年 6 月 11 日、昨年 6 月 5 日）となっているが、今後も高温傾向が続けば、開花が予想より早まる場合もあるので、作業適期を逸しないように注意する。